



Department of Livestock and Grassland Sciences



宮崎大学 農学部  
Faculty of Agriculture, University of Miyazaki

# 畜産草地科学科



家畜と草地の両視点から「考える」教育

宮崎大学 農学部 畜産草地科学科

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地  
TEL: 0985-58-7111 (番号案内)





# 家畜と草地の両視点から「考える」教育



## 畜産草地科学科で学べることは？

全国から動植物に興味のある学生が集まり、自給飼料に立脚した家畜生産や、安全で美味しい畜産物を食卓に提供するための教育と研究を行っています。  
対象となる分野は幅広く、野生生物・環境保全の場としての草地生態、遺伝資源管理、地球環境の保全、フードチェーンにおける衛生管理等、多岐にわたります。  
学んだことは実験動物や展示動物の管理にも応用できるでしょう。

## こういう人を求めています

- 資源循環、環境の保全、家畜の福祉等に配慮した持続的な畜産業の構築に対して熱意を持って取り組める人。
- 動植物に対する幅広い興味や関心を有し、実験観察において深く考慮する能力とその結果を表現する力を有する人。
- 大学での学修の基礎となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力を有する人。



## このような人材を育成します

農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境および食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。



## 個性豊かな教育研究分野

3年生になると、いずれかの分野に所属してそれぞれの専門分野を学びながら卒業研究に取り組みます。さらに他学科との連携も図りながら、家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生などについても学びます。  
常に生産現場に目を向けながら、「Soil-Plant-Animal System」と「from Farm to Table」の視点に立った総合科学的な研究に取り組んでいます。



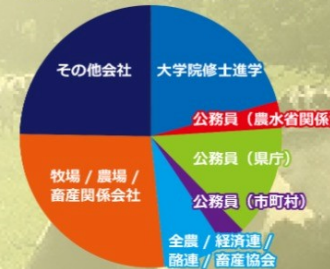
## このような教育を行います。

住吉フィールドは総面積 50ha の敷地を有する西日本最大級の大学附属牧場施設です。  
広大な敷地を利用した粗飼料自給率 100% の実績を活かして、家畜の合理的な生産や福祉、飼料となりうる資源の開発やその活用、草地・放牧の適切な管理などに関する知識、さらに畜産物利用や貿易、衛生管理など、食と農の安全に関する総合的な知識・技術をフィールドで実践的に学習することができます。



## 主な就職先、進学先

学部卒業生進路（過去5年間）



- 公務員**  
農林水産省、家畜改良センター、宮崎県庁、福岡県庁、熊本県庁、鹿児島県庁、愛媛県庁 など
- 民間企業・団体**  
全国酪農協同組合連合会、J/A全農ミートフーズ株式会社、伊藤ハム株式会社、プリマム株式会社、J/A宮崎経済連、株式会社ジャパンファーム、有限会社本川牧場、株式会社新日本科学 など
- 大学院進学**  
宮崎大学大学院（農学研究科、農学工学総合研究科、医学獣医学総合研究科）、北海道大学大学院、九州大学大学院 など



もっと詳しい情報（教員紹介、研究内容、卒業生の進路、在学生によるブログ等）は学科 HP をご覧ください。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/ags/>